



「笑顔とつながり」

永田台

ユネスコスクール11周年

No.553 1月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和4年1月7日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



春を待つ冬芽

校長 武山 朋子

このお正月は久しぶりに、中にはほぼ2年ぶりに、家族や親戚、古い友人と会うことができたという方も多いことでしょう。電話で話したり画面越しに顔を合わせたりすることが簡単になった昨今ですが、やはり実際に顔を合わせてこそ、はずむ会話もあるものです。残念ながら大方の予想通り、休み明けの感染拡大は避けられないようですが、決して気落ちせず、学校ではこれまで通りの感染症対策を続けていきたいと思えます。どうか、皆様も引き続き健康管理に努めていただけますようお願いいたします。

さて今年はトラ年、干支では壬寅（みずのえとら）となります。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」ということから、厳しい冬を乗り越えて、芽吹いたものがさらに成長するという意味をもつと、様々なところで紹介されています。

葉がすっかり落ちた樹木の枝の先に、固い芽を見かけることがあります。冬芽です。冬芽は晩夏から秋に形成され、休眠・越冬して、春に伸びて葉や花になる芽で、寒さを防ぐため鱗片（りんぺん）でおおわれています。樹木の種類によって形が違うので、よく観察することで、何の樹木か分かるのだそうです。また、葉が落ちた痕（葉痕）も手がかりのひとつになるので、冬芽と葉痕と一緒に観察するとよいのですが、中にはその組み合わせで愉快的顔に見えるものもあります。とてもユニークで様々な表情があるので、写真を撮ってHP等で公開しているものも多くあります。一つとして同じものがない、それぞれの個性、まるで子どもたちのようです。

子どもたちも、これまでの生活の中で我慢してきたこと、様々な制限の中で精一杯頑張ってきたこと、友達と直接かかわり共に学ぶ楽しさに気付いたこと等を、確かな力としてその身の内に蓄えています。その子らしさを大切に育みながら、まるで休眠して厳しい冬を乗り越えようとしている冬芽のように、温かい春の日差しの下で花開くのを待っているのです。

冬休み最後の日に、思いがけず雪が積もりました。今年の冬は例年に比べ寒さが厳しいようです。その冬を乗り越えたとき、春の日差しの温かさはなにものにも代えがたく思えることでしょう。今年もどうぞ、本校の教育活動への、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



「ひそやかな冬芽と逞しき冬芽

稲畑 汀子」

「真直ぐに行けと冬芽の挙りけり

金箱 丈止夫」